

10時に、48 kg級の選手4人が入場し、試合が始まりました。

今大会についてですが、①内側が黄色で、外側が緑色で囲まれている畳で行われます。②自分が観戦した席(西側(正面から左側))から見て、手前が第1試合場、奥が第2試合場となりました。③始めのスタートラインは、西側が白、東側が青となります。④今大会は、SONでお馴染みの、JAL 日本航空の協賛と、MS&AD 三井住友海上の特別協賛のもと開催されます。また両社は、全日本柔道連盟のオフィシャルサプライヤーにもなっています。⑤ウォーミングアップ終了後と、1回戦&準決勝終了後に、大会役員が、畳を消毒しています。

三井の最初の試合は、第1試合場で、MuchNo.5、57 kg級1回戦・船久保選手(白色の柔道着)で、クロツの選手戦です。船久保選手は前回大会で優勝されています。試合は、残り時間2分53秒で、相手が指導(内容は、基準的ではない組手(首抜き含む)・故意に取り手を組まない)があり、残り33秒でお互い同じ内容の指導をもらいました。技ありも出ず、ゴールドスコアの延長戦に入り、1分14秒で、またお互い同じ指導が入り、相手は指導3つだったので、船久保選手が勝利し、試合時間5分14秒で準決勝に進みました。

そして同じ畳で、MuchNo.6、57 kg級1回戦・副キャプテン玉置選手(白の柔道着)の、パーク24戦です。玉置選手の前回大会は、初戦敗退でした。試合は、開始44秒で指導(内容は、極端的な防御姿勢と消極的)を受けるも、残り2分27秒で相手にも指導(内容は、偽装攻撃)が入り、ここも4分で決着がつかず、ゴールドスコアに入りました。そのゴールドスコアは、開始22秒で相手に指導(内容は、場外に出る・押し出す)が入り、1分43秒にはお互いに指導(内容は、基準的ではない組手(首抜き含む)・故意に取り手を組まない)が入り、相手が3つ目なので、試合時間5分43秒で、玉置選手も初戦突破・準決勝進出しました。

その後の試合は、第1試合場の、MuchNo.9、70 kg級1回戦・桑形選手(柔道着色は青)のコマツ戦で、悔しくも、残り1分19秒に技ありの1ポイントで敗れました(試合時間4分)。

第2試合場で、MuchNo.11、78 kg級1回戦の梅津選手(柔道着色は青)は、自衛隊学校戦で、東京五輪・金メダリストの選手と対戦し、ゴールドスコアまで及びましたが、寝技で決着が着き(縦四方固め)敗れました(試合時間5分14秒)。しかし2選手共、楽しい試合で魅せてくれたのはありがたかったです。

そして、第1試合場で、MuchNo.12、78 kg級・キャプテンの高山選手(柔道着は白)は、一味違う技で魅せてきました。残り2分36秒で、相手が指導をもらったその約1分26秒後、寝技(腕がらみ)で、一発一本で、相手の攻撃をシャットアウト! 試合時間2分50秒で勝利、初戦を突破しました。

そして大会の進行は準決勝に入り、第1試合場で、MuchNo.17、57 kg級準決勝は、船久保選手(柔道着は白)対玉置選手(柔道着は青)で、まさかの三井住友海上のチームメイト対決となりました。しかも先月は、お互いフランスのパリで行われた、グランドスラムパリで、決勝対戦していました。そのとき、その試合と大会を制したのは、船久保選手でした。

そして今日、この試合は、畳の外でアドバイスを送るコーチ無しの一発勝負となりました。僕的には、どちらが勝つにせよ、見ていて怖い

気持ちでした。そして試合は、やはりお互い戦略を知ってる相手との戦いになるので、思った以上に相手を投げ飛ばせませんでした。開始 44 秒で、お互いに指導(内容は、標準的ではない相手(首抜き含む)・故意に取り組まない)1つと、残り 48 秒で、再びお互いに指導(内容は、極端な防御姿勢と消極的)が入るも、互いに一步も引かず、ゴールデンスコアへ行きました。そして 2 分 44 秒、玉置選手に指導が入り、試合時間 6 分 44 秒で、恐怖の時間は消え、船久保選手が決勝に進みました。敗れた玉置選手もナイスファイトでした。

そして、MuchNo.20、78 kg級準決勝、高山選手(柔道着は青)は、アルソックの選手戦で、キャプテンの切れ味を見せます。試合開始 1 分 12 秒で、帯取返で技ありのポイントを取りました。すると高山選手の勢いは止まりません。そのわずか 13 秒後でした。上四方固の寝技で、合わせ技 1 本を取りました。そして僕が見た試合の中で、最速の 1 分 35 秒で、決勝に進みました。

午後 1 時になっても、試合時間が押していたため、準決勝中ではありましたが、決勝も始まらないまま、BS テレビで全国中継が始まりました。準決勝終了後は、決勝に向けてのセッティングのため、10 分間の休憩タイムが入りました。

決勝の三井の最初の試合は、57 kg級、船久保選手です。2 試合前から裏でウォーミングアップを始め、優勝に向けての準備をしていました。その表情は明らかに、他の選手とは違う熱が伝わっていました。船久保選手が勝てば、この大会の連覇となります。相手は、東京五輪銅メダリスト・コマツの選手戦で、勝てば 3 年ぶりに優勝となる試合でもありました。

いよいよ試合開始の礼をする場面で、相手の選手は、決勝に緊張したのか？審判の『始め！』を待たずに礼をするなり取り組みを始め、審判も思わず、待て待て待てのジェスチャーをし、さらに緊張の空気が増しました。

試合は、船久保選手が果敢に足などで攻めるも交わされ、投げるにせよ、相手がうつ伏せになり『待て』がかかります。するとこの瞬間に、相手に指導が入り、幸先の良いスタートになりました。残り 1 分 50 秒頃、船久保選手は足を取られますが、お互いエリア外の緑の畳に出、命拾いました。残り 22 秒、手を取り合っている際に『待て』が入り、相手に 2 つ目の指導が入りました。船久保選手が優勝に王手をかけ、ゴールデンスコアに入ります。

そして、1 分 48 秒の事でした。相手が膝をついて防御姿勢に入り、6 秒後に待てが入り、相手が指導 3 つとなり、試合時間 5 分 54 秒で、船久保選手が優勝しました！

翌日の新聞の船久保選手のインタビュー文に『投げて勝ちたかったが、決まらず悔しい。パリ五輪に出たいので一つ一つの大会を成長しながら勝っていきたい』と書いてありました。是非頑張ってください！

そして 78 kg級の高山選手の対戦相手は、1 回戦で梅津選手に勝利した、寝技が得意な東京五輪・金メダリストの、自衛隊体育学校の選手戦です。入場時、先に歩く高山選手は、駆け足で畳へ向かいました。この試合も白熱です。高山選手が攻めようもんなら、すかさず、カウンターに寝技をかけられてそうになった事もありました。そして残り 1 分 41 秒で、高山選手が技ありを取りましたが、これがビデオ判定で、ノーポイント！



そして、高山選手が、もう一発下から投げようとしたのですが、相手が寝技で返したところで、審判から『抑え込み』の声がかかり……。え？ウソ！？何？？？何？とスタンドで見えていました。驚きながらも時間は進み……。そういば、高山選手が、もがいてたようにも見えたような……。自分は呆然の中、試合時間3分24秒で、試合終了。横四方固で敗れ、高山選手は準優勝となりました。

ただ表彰式では、少し笑顔で記念撮影を受ける表情も見受けられました。

今回は、人生初めての現地での柔道観戦で、テレビで見るのとは違う環境で見ることができて嬉しかったです。

果たして三井住友海上の選手の皆さんは、これからも、どういう飛躍を見せてくださるのか？そして出場できなかった選手も、下剋上を見せてくれるのか？とても楽しみです。

今年のスペシャルオリンピックス広島全国大会から、柔道が正式競技にもなっています。この選抜柔道の試合を見て、SONのアスリートもたくさんの事を学んでもらえたら良いなと思います。

これで僕の柔道の話を終えたいと思います。三井住友の皆様、沢山の感動をありがとうございました！